

草木が芽吹く弥生の空の下、玄界灘を渡る風にも確かな春の息吹が感じられる季節となりました。

本日、第十四回 早稲田佐賀高等学校卒業式を迎えられた卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今、こうして晴れの日を迎えられた先輩方の姿を見ると、私たち後輩がいかに先輩方の背中に支えられ、成長してきたかを改めて実感します。二年前、期待と不安を抱いて入学した私たちを、手をかすように優しく導いてくださったのは先輩方でした。右も左も分からない私たちを温かく迎え入れてくださり、本当にありがとうございました。ありがとうございました。

伝統ある行事においても、先輩方のその背中は常に大きな道標でした。特に体育祭では、最高学年としてのプレッシャーを微塵も感じさせない情熱で、全校生徒を盛り上げて、熱狂の渦へと導いてくださいました。自分の団の勝利に涙を流される姿。仲間を励まされる姿。そして誰よりも率先して場を盛り上げてくださった姿。

先輩方のいらっしやるその光景が、あまりにも鮮明で、私たちの心から離れることはありません。

また、部活動や生徒会活動においては、仲間と笑い合い、支え合う姿がとても印象的でした。思うような結果が出ずとも決して歩みを止めず、仲間と支え合いながら高みを目指す姿は、私たちの誇りであり、憧れでした。

私は最近、人生とは「信号機の連続」なのではないかと考えています。私たちは日々、多くの信号を渡ります。青になれば進み、赤になれば止まる。しかし、人生においては、渡りたいと願っても、なかなか青に変わらない瞬間が幾度となく訪れます。そんな時、焦って飛び出すのではなく、静かにその時を「待つ」強さを、先輩方の姿から学びました。

赤信号は、単に歩みを止めるためのものではありません。次に、より安全に、より遠くへ進むための準備の時間なのです。たとえ今、目の前の信号が赤であったとしても、これまで積み重ねてきた努力を信じて待てば、道は必ず開けます。先輩方がこれまで向き合ってこられ

た「赤信号」の時間は、これから始まる新しい日々において、力強く前へと進むことができる「青信号」へと繋がっていくはずです。

先輩方ならばこの校舎で身につけられた知識、教養、仲間との楽しい思い出、そして、苦難を乗り越えた経験を元に、どんな困難でも力強く乗り越えていけると信じています。本校で巡り会われた仲間との絆を生涯の宝とし、この校舎で学んだ大切なことを胸に、自分の未来をどうか切り開いて行ってください。

先輩方は、これからそれぞれの新たな人生を歩んでいかれます。たとえ遠く離れても、私たちはここ唐津の地より、先輩方のご活躍をいつまでもいつまでも応援しています。

最後に、卒業生の皆さまのご健康とさらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和八年三月一日

在校生代表 山内彩夏